1998年5月26日

学芸通信社　　編集部デスク様
人生相談担当　栗原　啓輔　様

日本アルコール問題連絡協議会
中央区日本橋浜町3-19-3 ｿｸﾞﾉ21ﾋﾞﾙ
☎０３－３２４９－２５５１
アルコール問題全国市民協会内

アルコール問題全国市民協会（ＡＳＫ）
アディクション問題を考える会（ＡＫＫ）
日本キリスト教婦人矯風会
日本アルコール医学会
日本アルコール関連問題ｿｰｼｬﾙﾜｰｶｰ協会
飲酒運転に反対する市民の会
イッキ飲み防止連絡協議会
全日本断酒連盟
救世軍日本本営
国際グッドテンプラーズ
日本禁酒禁煙協会
日本禁酒同盟
アンスワール相互保険会社

高知新聞４月２５日付「みんなの相談室」に掲載された回答内容についての申し入れ

私ども日本アルコール問題連絡協議会は、さまざまな立場でアルコール関連問題の予防や早期発見・回復のための活動を行なっている団体の集まりです。

貴社が配信され、上記新聞に掲載された相談の回答には、非常に危険な誤解が含まれているため、誤った情報を訂正するための対応をしていただきたく、書面で申し入れます。

アルコール依存症は、人格や性格上の問題ではなく、飲酒に対するコントロールの喪失と離脱症状の出現を主な症状とする「病気」です。この疾患に特定の性格背景が存在しないことは、すでに医学分野での常識となっております。したがって、アルコール依存症になった人にとって必要なのは、監視や趣味をもたせることではなく、まず第一に病気としての診断と治療です。

しかし、この回答に見られるような誤解と偏見は、世間に根強く残っています。かつてに比べれば正しい知識が広まってきたものの、「アル中は性格破綻の病気」「社会の落伍者」といったイメージがなかなか払拭されません。

その中で、多くの依存症者が内科疾患の治療だけに終始し、内科の症状がよくなると再び飲んで病状を悪化させるという悪循環の末に、家族も仕事も住む場所も失ってようやく

専門医療機関にたどりつくことが少なくないのです。家族も、正しい対応への知識が得られないと、「説教する」「趣味を持たせようと努力する」「悩みを解決しようとする」「節酒させようとする」「禁酒を誓わせようとする」「酒の上での失敗を取り繕う」「お金を持たせない」など、見当違いの対応を繰り返して疲れ果てます。そして家族自身も深く傷つき、関係が崩壊してしまうのです。

つまり、誤解に満ちたアドバイスは役に立たないだけでなく、有害であるということをご理解いただきたいと思います。

今では全国各地に依存症の専門治療機関があり、入院治療だけでなく外来治療のクリニックもできています。こうした治療の場では、家族が病気について理解したり自分の感情を整理するためのグループがあるなど、本人の回復と並行して家族全体の関係が回復していけるよう、プログラムが組まれています。回復を継続するための、断酒会や、ＡＡ（アルコホリクス・アノニマス）といった自助グループも各地にあり、多くの依存症者が社会復帰を果たしています。

依存症は進行性で死に至る病であり、早期に発見し治療をすすめるためには、何よりも正しい知識が広まることが必要です。だからこそ、公共のメディアにおいては依存症をきちんとした角度から扱っていただきたいのです。

新聞の人生相談は、一般的に言って、読者に人気の高いコラムです。回答上の間違いを防ぐためには、飲酒問題がからむ相談に対しては、回答者にかならずアルコール専門の医師や援助職を選ぶ配慮を怠らないでいただきたいのです。

つきましては、今後の対応について、次の点につき明確にした上で、６月２５日までに責任あるご回答をお願いします。

記

１　誤った情報を訂正するため、どのような対応をとっていただけるか

２　配信先に、今回の申し入れの経緯をどのように伝えたか

３　この記事を配信した新聞社のリスト

４　今後、アルコール関連問題について相談で取り上げる場合、回答者の人選にどのような配慮をしていただけるか

以　上

なおご回答は、＜アルコール問題全国市民協会（ＡＳＫ）代表　今成知美＞までお願いします。

住　所　〒103-0007 中央区日本橋浜町3-19-3 ﾂｸﾞﾉ21ﾋﾞﾙ ２Ｆ
電　話　０３－３２４９－２５５１
ＦＡＸ　０３－３２４９－２５５３

※依存症に関する資料を同封いたしますので　参考にしていただければ幸いに存じます。